

策定にあたって

下水道は、生活環境の改善や浸水被害の軽減など、日々の市民生活と社会経済活動を支える都市基盤施設であるとともに、健全な水循環や清らかな水環境を創出するという極めて重要な役割を担っています。

札幌市の下水道は、大正 15 年に雨水排除を目的として始まり、昭和 30 年代からの都市の急激な成長や札幌オリンピック開催にあわせて集中的に整備を行ってきた結果、8,200km を超える管路や 10 か所の水再生プラザなど、膨大な資産を抱えています。

下水道施設を 24 時間 365 日、休むことなくしっかりと機能を維持し、運転管理していくためには、適切に維持管理を行い、計画的かつ効率的な改築が必要となることから、将来的な改築の方向性を示す基本的な考え方として、平成 27 年 3 月に「札幌市下水道改築基本方針」を策定しました。

さらに、近年多発している局所的な集中豪雨による浸水被害の危険性の高まりや、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故を受けたエネルギー政策の転換などを踏まえ、札幌市の下水道として、自然災害への対策や循環型社会への貢献にも積極的に取り組んでいかなければなりません。

しかし一方で、人口減少や少子高齢化など、札幌市の下水道を取り巻く経営環境は、一層厳しくなると予想されます。次世代に「下水道」という都市基盤をしっかりと引継ぎ、健全な経営を続けていくためには、人・モノ・カネの経営資源をしっかりとマネジメントしていく必要があります。

このような状況を踏まえ、下水道事業が将来に渡って、その役割を果たしていくために必要な今後 5 年間の行動計画として、「札幌市下水道事業中期経営プラン 2020」を策定しました。

当プランの事業を着実に展開するため、下水道サービスを提供する「公営企業」としての公益性・経済性を継続し発揮させることはもちろんのこと、普段意識されることの少ない下水道について市民視点・利用者視点での十分な説明や PR を心がけ、職員一丸となって取り組んでいく所存です。

市民の皆さま、事業者の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成28年（2016年）3月

札幌市下水道河川担当局長
坂田 和則